

ニュースレター・ダイジェスト 第13号

令和2年10月5日 発行人:「史実を世界に発信する会」 茂木弘道

**新たに二冊の本がアマゾンから
Kindle とオン・ダイヤモンド・ペーパーバック出版へ**

「戦争を仕掛けた中国になぜ謝らなければならないのだ！」(茂木弘道著)

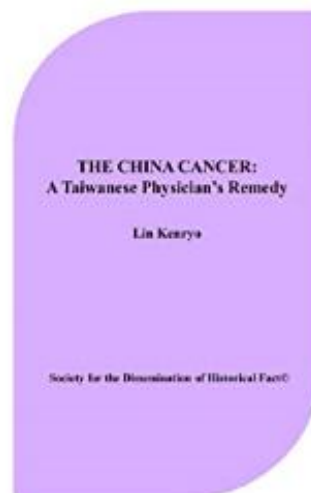
How china Started the Second Sino-Japanese War

「中国ガン:台湾人医師の処方箋」(林建良著)

The China Cancer: A Taiwanese Physician's Remedy

の二点が新たにアマゾンから世界に向けて販売されました。

我々の海外向けのニュースレターは、学者、マスコミ、政治家など約4000のアドレスに向けて発信していますが、これを活用しながら、世界の人々に訴えていきたいと思ひます。



No. 284 <書評>
ハワイの主権：事実が問題？
サーストン・トゥイッグ・スミス
グッデイル出版 1998
書評者：タダシ・ハマ

最近のアメリカにおける黒人暴動を見ていると、人種的マイノリティーがその正当性を「被害者文化」的な価値観をバックに広げていることがわかります。「被害者文化」とは、自分にとって不利益な事態が生じるとその原因は自分ではなく、外的要因にあると主張する最近はやりの人権主義者の思想です。

ハワイにおいてもこうした考えを持つハワイ主権主義者がおり、米国的な制度を廃して、「伝統的なハワイ文化」を復活させたいと願っています。(ホワイトアメリカンを祖先に持つ人も中にはかなりいます。また、ハワイ先住民も今ではハワイ人口のごく一部を占めるすぎなくなっている現実もあります。)

アメリカに併合されるに至ったハワイの歴史をホノルル・アドバタイザー紙の元オーナーで、宣教師の玄孫であるトゥイッグ・スミスが書いたのが、「ハワイの主権：事実が問題？」です。普通イメージされているのとはかなり異なる事実が記載されている貴重な書のようなようです。

アメリカの影響で、1840年には最初の憲法が制定され、立憲君主制となっています。1852年憲法では、国民の諸権利が20歳以上で納税する男子住民（先住民帰化人を問わず）権が与えられていました。1887年憲法では、「選挙権を与えられるのは、ハワイ人、アメリカ、ヨーロッパのいずれかの出自の男子で」。かつ、「ハワイ語、英語、あるいは他のヨーロッパ語で、通常の新聞を読んで理解できるもの」。ということで、アジア系の人には選挙権が与えられていなかったのです。

カラカウア王が1881年に日本を訪問し、姪のカイウラニ王女と東伏見依仁親王との結婚を持ちかけたことはよく知られています。カラカウア王は、日本の支援を求めるだけでなく、「アジア諸国及び元首の連合体」もしくは「ポリネシア連合」の建設を模索していたといえます。しかし、一方では、日系人（そのころ人口の半分近くを占めた大勢力）には選挙権を与えていないなどという不可思議なこともあります。

ハワイ王国の滅亡は政府の腐敗無能のため、アメリカ系だけでなく、ハワイ人の多くが望んだ結果であったようです。

書評英語原文： http://www.sdh-fact.com/CL/Hawaiian_e.pdf

日本語訳： <http://hassin.org/01/wp-content/uploads/Hawaiian.pdf>

慰安婦問題の真実を語る
国史教科書研究所 金柄憲所長
その1：慰安婦像真実究明記者会見（演説）

2020年5月7日、慰安婦の象徴的存在である李容洙（イ・ヨンス）は、記者会見を行い衝撃的な発言をしました。

- 1) 挺対協（現在正義連）は集めた寄付金をほとんど慰安婦のために使っていない、その代表者（尹美香）の私的目的のために使われている。
- 2) 自分の慰安婦時代の経験についての証言は、尹美香（ユン・ミヒャン）から言われたとおりにしたものである。
- 3) 自分は「性奴隷」ではない。尹美香に「私が性奴隷ではない」といったが、尹美香は「こう表現してこそ米国が怖がる」といって使わされた。

要するに、慰安婦問題の虚構性、そしてこの問題が特定の政治的な団体のために利用されていたということを内部告発したものです。アメリカ議会で証言を行った張本人がこのような「内部告発」をおこなったのです。

韓国で、慰安婦問題が歪曲されて流布され、慰安婦像を建てることに反対しているグループがあります。韓国の「国史教科書研究所」の金柄憲所長もその一人です。李容洙記者会見の8日後の15日に、金所長は、ソウルの慰安婦像の前で記者会見を行い、李容洙発言に触れつつ、慰安婦問題の本質をズバリと直言する演説を行いました。

本質は、与党であれ野党であれ、
慰安婦が日本軍による日帝被害者だという認識を
基本的に持っていることです。

ところが、これは明らかに
嘘です。

この慰安婦は日帝による被害者でもなく、
日本軍による被害者でもありません。

記者会見の全文は、YouTubeで見られます。<https://youtu.be/ZnWorSfhGs0?t=859>
その日本語訳の全文と、その英訳は下記の通りです。

日本語訳文：<http://hassin.org/01/wp-content/uploads/Press.pdf>

英訳文：http://www.sdh-fact.com/CL/Press_e.pdf

慰安婦問題の真実を語る
国史教科書研究所 金柄憲所長
その2：「最大限のウソを暴く！」（UNクマラスワミ報告書）

前回は、金所長の日本大使館前の慰安婦像の前における記者会見（演説）をご紹介しました

が、今回は6月23日行われた講義をご紹介します。

<https://www.youtube.com/watch?v=07Jql2hqUb4>

タイトルは、「最大限のウソを暴く！」(UN クマラスワミ報告書)です。

クマラスワミ報告書が今の大韓民国の慰安婦問題の
核爆発だったんですよ。本当に！
そこから(クマラスワミ報告書)
すべてのことが我が国の慰安婦問題の歪曲とか
慰安婦問題を政治的利用をする根拠になったんですよ。これが！！
すべての根拠になってしまって、全ての問題をここに押し付けて、
UNが認めたんだ！
これで解決してしまうんです。
(それ以上何も言わなくてもいい。)
でも、これは全部嘘なんです！！
クマラスワミUN人権報告書、
そしてマクドゥーガル報告書
全部、嘘なんです！！

そして、慰安所とは何か、慰安婦とは何かについての詳しい説明を行っていきます。それに基づいて国連の「クマラスワミ報告書」は全く事実無根としか言えない、ウソまみれ報告書であることを立証し、次のように言います。

このクマラスワミと言う人は本当に悪い人だ！
ここにこの資料を提供した韓国の
挺対協のユン・ジョンオク(尹貞玉)氏と
シン・ヘス(申蕙秀)氏、イヒョジェ氏は
この人たちは本当に天罰を受けなければなりません。

金柄憲所長の講義 (YouTube)

日本語訳文：<http://hassin.org/01/wp-content/uploads/Press2.pdf>

英訳文：http://www.sdh-fact.com/CL/Press_e2.pdf

No. 287

スディルマン将軍像献花式

8月17日、インドネシア独立記念日に、防衛省内に立つインドネシアの国民的英雄スディルマン将軍像への献花式が行われました。防衛省からは防衛大臣代理の渡辺幸一政務官、インドネシアからはトリ・プルナジャヤ臨時大使が駐在武官10名とともに出席しました。

葛城奈海、献花式実行委員長が下記の挨拶を行いました。

日本語原文：<http://hassin.org/01/wp-content/uploads/Sudirman.pdf>

英訳文：http://www.sdh-fact.com/CL/Sudirman_e.pdf

2011年にインドネシア国防省から日本の防衛省にスディルマン将軍の像が送られてきました。鳩山政権下だったためか、像はしかるべき扱いを受けないままでした。

このことを知った加瀬英明先生が呼びかけ人となり、8月17日の独立記念日に、スディルマン将軍像への献花式を行おうということになり、今年はその6回目の献花式でした。

インドネシアは1945年8月17日に独立を宣言しましたが、旧宗主国オランダはそれを認めず、イギリス軍とともにインドネシアに再上陸してきました。日本統治下で訓練を受けたPETA（郷土防衛軍）を主体とするインドネシア共和国軍は、日本軍残留兵士2000名の支援も受け、4年5か月にわたる独立戦争を戦い抜き勝利しました。共和国軍の初代司令官がスディルマン将軍です。約80万の犠牲者という代償を払っての独立でした。

この独立戦争の真っ最中、東京では極東軍事裁判が開かれ、日本は侵略者、戦争犯罪国として裁かれていました。その裁判を行っていた連合軍が、同時にインドネシアで正真正銘の侵略戦争を行っていたのでした。

何とこのことを記述した「新しい歴教科書をつくる会」の新年度版が、文科省の検定で「不合格」となったのです。「インドネシアは今でも独立が日本の戦いを機縁として実現したこのに感謝の心を持っていたのです。」という記述は、「感謝しているかどうか不明」という理由で不合格とされたのです。日本にだけスディルマン将軍像を送ってきて、献花式に大使迄が出席しているというのに、「感謝」しているかどうか？などと不合格にする教科書調査官、教科書は適切に検定されている言い張る文科大臣、一体どうなってるのでしょうか？

No. 288

大東亜戦争 日本は「勝利の方程式」を持っていた！（ハート出版）

茂木 弘道

その6 第5章 秋丸機関と歴史の偽造

「対米英蘭蔣戦争終末促進に関する腹案」（以後「腹案」）に沿った戦いを進めれば、日本の勝利は極めて高い可能性があったことを第3章で詳しく説明しました。

イギリスのチャーチル首相が、開戦2年目の1942年4月7日付でルーズベルトへの手紙で「今、日本がセイロン島と東部インドからさらに西部インドへ前進してくれば対抗できない。蒋介石ルート、ペルシャ湾経由の石油輸送ルートやソ連支援ルートが遮断される」と悲鳴を上げているのを見れば、いかにこの作戦が有効だったか理解することができます。

なぜこの勝利の戦略が実行されなかったのかについて第4章でいろいろな角度から検討いたしました。

いずれにしても、日本は決して自国の力、世界情勢に盲目だったために無謀な戦争に飛び込んでいったのではない、ということは十分に理解いただいたことと思います。

ところが、戦後日本に勝利の戦略があったなどということは、全く論じられないできました。軍閥が、世界の情勢もわきまえずに、無謀な侵略戦争を起こした、という歴史観が支配してきたからです。

「腹案」のもとになった、秋丸機関の主査の有沢広巳が作成した「英米合作経済抗戦力調査一其1」は、その存在が抹消されていました。さらに、当の作成者である有沢広巳自身が、1956年に雑誌『エコノミスト』に「支離滅裂の秋丸機関」という回顧録を書き、その中で、提出した報告が国策に反するというので、報告書はすべて焼却させられた、と書いたのです。すべて報告書はなくなっている（はずである）ことをいいことに、全く反対のことを言っているのです。つまり、戦後の風潮に便乗して、秋丸機関は無謀な戦争を止めさせる報告書を出した、という大ウソをぬけぬけと書いたのです。

すると秋丸機関の責任者であった秋丸次郎（元中佐）も、1979年に回顧録『朗風自伝』で、同じようなことを書いているのです。

1988年に有沢は死去しました。すると、なくなっていたはずの「英米合作経済抗戦力調査一其1」が残された文書の中に存在していたのです。家族にの人は、そのようないわくのある文書とは知らず、これを東大経済学部図書館に寄贈したのです。かくして、有沢、秋丸の言っていたことは全くの虚偽であることが明らかになった、いやなる筈だったのです。

ところが驚いたことにこれを正しく読んで偽造された歴史を書き換える歴史学者、経済学者が出てきたかということ、実際は全く逆で、相変わらず、有沢、秋丸のウソが歴史学界の主流ではまかり通っています。これを根底からたどったのが『日米開戦 陸軍の勝「秋丸機関」の最終報告書』（林千勝著）（祥伝社）です。この問題について本書ではさらなる考察を加えています。

日本語原文：<http://hassin.org/01/wp-content/uploads/Greater06.pdf>
英訳文：<http://www.sdh-fact.com/CL/Greater-East-Asian-War-No.6.pdf>

.....

* Newsletter は、日本語版（本ニュースレター・ダイジェストは日本語版から英文の部分を除いたもの）と、英文版とがあり、海外には英文版が送られています。海外向けには、約4000のアドレスにに向けて送信されています。

発行所：「史実を世界に発信する会」 TEL 03-3519-4366 FAX 03-3519-4367
105-0003 東京都港区西新橋 2-13-14 新佐久間ビル 3 F info@hassin.sakura.ne.jp
日本語サイト：<http://hassin> 英語サイト：<http://www.sdh-fact.com>